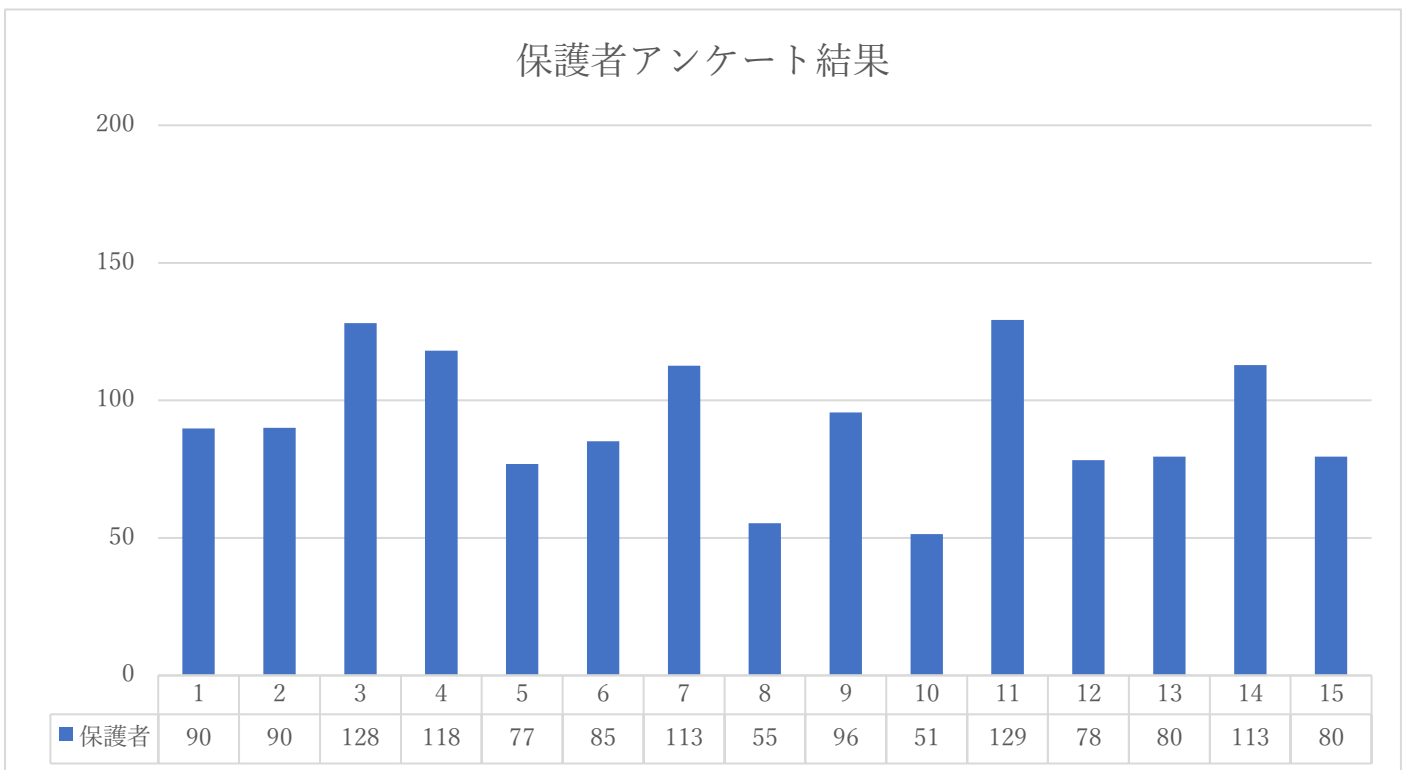


●保護者アンケート結果

保護者アンケートの回答を点数化し、200点満点でグラフ化した。本アンケートは、本校の学校運営について回答を頂き、その結果を今後の学校運営、教育活動へ反映されるよう努めていく。

***点数は200点満点**



【質問①】

慶誠高校は学校の教育方針や目標を保護者後援会などを通じて保護者に伝えている。

90点。半数以下である。保護者がこれまで大切に育ててきたご子息・ご息女を学校は預かり、教育活動を展開していく。そのような重要な役割を担うわけであるから、学校側はきちんと教育方針・目標をきちんと保護者に伝え、理解してもらえよう努力をし続けなければならない。また、入学後だけでなく、生徒募集の段階で本校がどのような学校なのかという情報を積極的に発信していきたい。

【質問②】

慶誠高校は保護者および地域社会から信頼されている。

90点。半数以下である。この結果を管理職をはじめとする教職員が真摯に受け止めなければならない。1日も早く全ての方々に信頼してもらえよう努力するべきであるし、不足している部分を確認し改善していかなければならない。そのためには、多方面とコミュニケーションを図る機会・ツールを見出していきたい。

【質問③】

慶誠高校に自分の子どもを入学させて良かった。

128点。半数以上の保護者の方がこのような回答をして頂いていることは非常に有難いことである。ただ、この項目については、200点満点を目指さなければならない。そのためには、まず目の前にいる生徒に対して、何が出来るかを教職員一同考えていく。生徒が成長する姿が保護者の満足度を上げることに一番直結すると考える。

【質問④】

慶誠高校の学科・コースは魅力的である。

118点。本校の科・コース概要は2学科6コースと多岐にわたる。それぞれが、特色を出しながら、専門科目を通し教育活動を行っている。それが、魅力的に見えるよう、また、実際に質の高いものとなるようにしていかなければならない。そのためにも、生徒自身が何のためにどのようにして学習を進めていくのかという計画を理解できるようにしたい。

【質問⑤】

慶誠高校は保護者とのコミュニケーション（連絡）を大切にしている。

77点。この結果は、保護者と直接コミュニケーションを取る立場にある、担任、部活動顧問などが中心に真摯に受け止めていかなければならない。文書による連絡や電話連絡その他ツールを活用しながら、保護者とのコミュニケーションを取っていききたい。

【質問⑥】

慶誠高校の先生方は生徒の悩みや相談によく応じてくれる。

85点。生徒が相談しやすい雰囲気・システム作り。これに注力していきたい。学習に関する相談や進路相談をはじめ、心の問題など高校生が抱える悩みは多岐にわたる。少しでも、生徒が安心して学校生活を送れるように環境づくりに努める。

【質問⑦】

慶誠高校は生徒の生活の規律指導（挨拶・遅刻・欠席・服装など）は適切である。

113点。半数以上の保護者から理解を得られている。しっかりと継続していきたい。ただ、約半数の方はそうではないと感じているため、何が原因なのかを学校全体で考えていかなければならない。

【質問⑧】

慶誠高校での授業について授業は解りやすいと子どもから聞いている。

55点。この結果については、大きな課題として受け止める。学校活動の中心はあくまでも授業であり、日頃の授業の質を高めるために教材研究を怠らないようにすることはもちろんのこと、生徒がきちんと理解できるいか小テスト、定期考査等を用いてしっかりと評価しなければならない。また、教職員は点数が取れない生徒に対し、生徒自身の取り組みに問題があるように考えがちだが、その点を自分自身を省みる機会にしなければならない。

【質問⑨】

慶誠高校は生徒の進路（就職・進学）が実現するように努力している。

96点。高校の最終的な目標は、生徒の進路確保である。その点について、保護者の半数以上が学校に対して努力できていないという印象を抱いていることは大きな課題である。担任は、日頃から二者面談や三者面談を通して生徒の進路希望を把握し、保護者の同意が得られるかどうか、そして、実現に向けてどのようにしていくのかなど道標を示していかなければならない。また、進路部は多数ある進学先・就職先の情報を生徒が活用しやすいように整理整頓し、提供していかなければならない。

【質問⑩】

慶誠高校の学校行事（体育祭・文化祭・歓迎遠足・クラスマッチ・修学旅行など）は充実している。

51点。教職員・生徒アンケートにもあるように、この項目についてはコロナウイルスの影響が大きくあるように思う。昨年度ではほとんどの学校行事が中止となり、今年度は出来るだけ「中止ではなく縮小開催」という形を取ってきた。しかし、やはり本来の形式とは大きく異なるため、生徒自身の満足度は上がらなかったのではないだろうか。また、今後もコロナ禍の状況が続いていくことも予想されるため、より良い形で学校行事が実施できるよう工夫を凝らしていく。

【質問⑪】

慶誠高校の部活動は活発である。

129点。高い結果となっている。本校には、強化部・準強化部をはじめとする多くの部・同好会が存在する。コロナウイルスの影響で、活動がしにくい状況ではあるが、各種大会・コンクール・コンテスト等でたくさんの生徒が活躍をしてくれている。今後も生徒たちがのびのびと活動できる部・同好会運営を行っていききたい。

【質問⑫】

慶誠高校は人権教育（差別をしない、一人ひとりを大切にす等）の推進に力を入れている。

78点。保護者には普段の学校生活は見えにくい状況にある。そのようなことから、広報の意味を込めて「慶誠の息吹」という新聞を毎月発行している。そのような方法を用いて、人権教育についてもその内容等を保護者に周知できれば良い。

【質問⑬】

慶誠高校は健康・安全に関する教育に力を入れている。

80点。生徒が心身ともに健康に生きていけるよう、健康・安全教育は積極的に行っていかなければならない。健康については、養護教諭による保健だよりが毎月発行されている。この活用を学年・担任から行っていくことにより、現在の状況よりも浸透していくのではないか。また、安全教育については生徒部・学年を中心として外部から講演者を招くなどを行い、意識付けを行っていききたい。

【質問⑭】

慶誠高校は清掃が良くなされており快適な環境を築くため施設の整備に力を入れている。

113点。生徒たちの日頃の清掃活動の賜物である。清掃時間には教職員も各担当区域に配置されているため、それぞれが生徒と共にしっかりと清掃していききたい。また設備について、備品故障の対応や更新時期なども適切に行い、環境づくりをしっかりと行っていききたい。

【質問⑮】

慶誠高校の保護者後援会のあり方は適切である。

80点。この結果は教職員だけではなく、後援会とも共有したい。コロナ禍になり、後援会として活動もかなり制約があった。学校教育は、教職員だけでは成り立たない。保護者の意見を伺いながら、連携をとって進めていくものである。今後も後援会活動がスムーズに展開していけるように、教職員も協力をしていく。